

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100372		
法人名	医療法人智仁会		
事業所名	グループホーム福寿荘		
所在地	佐賀県佐賀市西与賀町大字厘外1236-7		
自己評価作成日	令和3年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年11月25日	外部評価確定日	令和3年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの個性を大切に、声掛けや支援方法など、その人に合ったきめ細かな関わり方を心掛けている。建物は閑静な住宅地にあり人通りは少ないが、散歩時には地域の方や子供たちに挨拶や声かけを行い、社会との接点を感じられるよう努力している。高齢化や認知症の進行により、年々身体機能は低下しているが、極力屋外に出られるよう外出支援に取り組んでいる。地域の催しや同法人で行われるクリスマス会や習いごと教室等に参加し、交流を図っている。誕生日会や敬老会では、家族との交流の機会を設け、また家族との外出や家庭行事への参加を促し、本人と家族の繋がりを維持できるように働きかけている。食事は生活の中での大きな楽しみの一つと捉え、季節を感じられる献立や、入居者の嗜好を反映し、好きなものを取り入れ、美味しく食事をして頂くように取り組んでいる。また、おやつレクなどを行い、「作る喜び」「食べる楽しみ」の機会を提供している。地域包括支援センターや医師とも連携を密にしなが、本人のみでなく家族を支える支援にも取り組んでいる。日頃から家族には利用者の健康状態や生活状況を伝え、家族と共に利用者を支援できるように心掛けている。毎月「福寿荘だより」を送付し、写真付きで近況の報告を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム福寿荘は、大通りから一步入った住宅街に位置しており、外の音も騒々しくない場所に建っている。自宅にいるような雰囲気がある。近隣の方が花壇を作られており、新型コロナウイルスの感染対策(三密を避ける等)を実施しながら散歩に行くこともある。運営推進会議の委員が多く、地域の中のグループホームとしての位置づけが出来ていると感じる。ホーム内には入居者と職員が共に作成した壁飾りがあり、食事職員が一から作っており、調理中の音や匂いからも温かい雰囲気を感じられる。また、母体が病院であり、法人内には特別養護老人ホームや訪問看護ステーションもあり、法人内での連携・協力体制があることが強みである。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の個性や以前の生活を大切に、施設では先輩として尊敬の念を持ち、「その人らしく」生活できるよう支援することを理念に掲げている。職員は理念カードを常に携帯し、一人ひとりの利用者の立場に立ち、支援するよう努めている。利用者との関係は、「合せ鏡」であることを常に意識して行動している。利用者の加齢により介助量は年々増加しているが、理念の共有と実践についてはよりつながってきている。	法人の理念とは別にグループホーム独自の理念があり、グループホーム理念は、玄関と事務室、職員ロッカーに貼り出されている。「認知症のある人は、私たちの鏡である」と表記されており、ケアをする人の姿勢が相手に伝わる事は、以前からずっと引き継がれて意識していることである。毎月の会議にて、何かあれば、理念に立ち返ってケアを検討するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館の催しに参加し交流を図っている。運営推進会議において自治会長、民生委員から地域の年間行事や防災に関する情報提供をいただいている。地域の文化祭にも作品を出展している。校区の防災訓練にも参加している。散歩の途中ではご近所の方と挨拶を交わしたり、季節ごとの野菜や果実をいただくこともある。	以前は、お話会や体操などの公民館の催しや、校区の防災訓練への参加が出来ていたが、新型コロナウイルスが蔓延してからは、出来ない。しかし、最近では新型コロナウイルスも落ち着いてきた為、近所に花を栽培されている方がおり、その花壇まで散歩されている。また、近所の方からは、玉ねぎやイチジクを持って来てもらったりして交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症のみならず、介護全般の相談にのる体制は整えている。ボランティア・職場体験・実習の受け入れを行っている。またおたっしや見守りネットに参加し、地域の高齢者の見守り活動に協力している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催している会議では、利用者の健康状態や活動の報告を行っている。また、地域包括支援センターからの最新の情報も頂き、サービス向上に活かすよう努めている。意見は口頭や回覧を通し職員全員に伝達共有し、サービス向上に活かす努力をしている。	新型コロナウイルスの感染予防対策として書面会議をされていたが、7月・11月は落ち着いていた為、開催された。書面会議では情報報告に留まっていたが、資料内容についての質問やグループホームでの感染対策についての質問があったり、地域の情報提供、行政の流れなどの意見が出ている。委員には、自治会長や民生委員、地域代表の方、地域包括支援センター職員がおり、また、法人本部の役職者も参加されている。	会議記録に、参加者の記載と、会議にて出た意見の記録がない。沢山の出席者がおり、意見も出ている為、その具体的な内容が残っていれば、反映しやすいと思われる。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の福祉担当者や、地域包括支援センターと連絡を取り合う体制は整えている。利用者では成年後見人制度を利用されている方がいる。運営推進会議に参加してもらい協力関係を築いている。	空き状況の確認や受け入れ対象に関する問い合わせがある。グループホーム側からは、最近では入居者の生活保護の申請に関する相談を行った。 運営推進会議に、地域包括支援センター職員も参加されており、協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束内容は全職員が理解している。身体拘束ゼロを実施。日中玄関は施錠していない。利用者の状態により、施錠する場合がある。身体拘束に関わる指針は、廊下の目に付きやすいところに掲示している。また、身体拘束についての研修にも参加・共有しながら、日頃の行動・言動を振り返る機会としている。	法人で拘束に関する全体研修会があり、グループホーム職員も参加している。また、グループホームでも定期的に勉強会を開催しており、拘束に関しては理解できている。 センサーを使用されている入居者もいるが、安全性だけでなく精神的拘束も考慮し、随時必要性について検討されている。 接遇面でスピーチロックと捉えられてしまうような発言があれば職員同士が注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、情報を共有・随時話し合うことで、職員一人ひとりの虐待に対する認識の確認をしている。職員同士で言葉遣い等も含め注意しあう努力をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見人制度を利用されている方がおられる。運営推進委員でもあり、ご意見をいただき共有している。権利擁護に関する制度については更に学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には互いに書面を確認しながら十分に説明を行っている。質問に対しては理解していただけるまで話し合うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より利用者との会話から意見要望を聞いている。家族には来荘時に報告を行い、意見を聞くようにしている。頂いた意見は、日々の申し送りやグループホーム会議で職員全員が情報共有できるようにしている。また、年に1回利用者アンケートも実施し、法人全体で共有する仕組みもある。外部に対しては運営推進会議等で意見を伝えている。家族は毎年代表者1名に参加してもらっている。	意見箱はあるが、入っている事はない。入居者の意見は日頃の会話から汲み取ることが多い。「珈琲が飲みたい」「本を読みたい」等の意見があり、内容によってはご家族と相談して反映に繋げている。ご家族は、面会時など直接話される事が多い。最近では、面会や、日頃の状態についてのお尋ねが多い。また、法人でご家族対象に年1回利用者アンケートを取られており、日頃の職員の対応などを含め意見を出せる機会がある。出た意見は、毎月のお便りで改善点を発信している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のグループホーム会議では勿論のこと、日々気づき等があるときは、その都度意見を聞いている。必要に応じ、代表者(法人)に職員の意見を伝え、業務の改善・運営に反映している。	管理者は、今年8月からの着任だが、それ以前は現グループホームの介護職員であった為、現場職員は管理者に言いやすい関係となっている。業務に関する意見が多く、最近では入浴を2名介助にしている入居者がいる場合、フロアーの見守り不足が発生しているとの意見があり、業務の流れを見直す事があった。管理者も、定期的本部に出向いたり、本部から上司が来訪する事もあり、グループホームだけで判断できない内容は、相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課制度あり、自己評価書や面談を通じ、職員個々のスキルやモチベーションアップにつながるような仕組みがある。勤務表作成にあたり、職員の勤務希望を考慮した調整を行い、ワークライフバランスを考慮し、働きやすいよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する施設外研修や、職員に必要と思われる施設外研修に参加させている。研修内容については、GH会議と報告書で報告の場を持ち、全職員で研修内容を共有している。施設内でも研修を行い、職員全体のレベルアップに努めている。管理者は、必要によりアドバイスを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修にも積極的に職員を参加出来るようにし、他施設職員等と交流・情報交換を行うよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話や訴えはもとより、表情やしぐさから気持ちを察するよう努力し、傾聴と共感する姿勢で関係作りに努めている。他施設入所中の場合は、当事業所から出向き、本人の生活状況や、精神状態を細かく探り、関係づくりに活かす努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に話を聞き、困っていることや不安なこと、要望などを聞き取るようにしている。ケアマネジャー・家族から情報を収集し、些細なことでも話していただけるような態度で接し、安心して頂けるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	より良いサービスの利用が出来るよう対応している。福祉用具や医療連携の説明など、また、他のサービス利用の方が適当と思われる場合は、その紹介も行っている。最終的に本人と家族が納得して利用して頂けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に過し、残存機能をいかし、出来ることは自分でして頂くよう努めている。利用者から、「生活の知恵」を学ぶ機会も多く、お互いに助け合い生活を共にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の「福寿荘だより」の他、こまめに連絡を行い、現状を伝えることで認知症の進行や体調を理解して頂き、家族と共に支えていく関係を作る努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	祝い事、法事や墓参りなどの家庭行事には、出来るだけ参加して頂くように働きかけ、家族や親戚、ご近所の方と会える機会を作ってもらっている。職員は情報を収集し、それをもとに会話したり、ドライブ等の外出時は、自宅近くや町内の様子を見て頂いている。	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為、外出は出来ていない。以前は、ご家族に協力して頂き、馴染みの場所等に行かれていた。現在は、条件を満たしていれば面会可能となっており、友人・知人の面会も可能となっている。また、携帯電話の持ち込みも可能であり、自由に使用されている。誕生日や敬老祝を送られてくる方もいる。また、入居時に必ず主治医を変更する必要がない為、これまでのかかりつけ医を継続する事も可能である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の関係を把握し、状況を共有しながら支援している。入居者が一人で孤立しないように話題を提供したり状況をセッティングしている。利用者同士のコミュニケーションが上手くいかない時は、職員が介入し互いに気持ちよく関わり合いができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の支援体制は整えている。入院の場合は、面会に行く機会を作っている。職員も家族と入院先や買い物等で会った場合は、挨拶を交わし、情報交換し、家族の労をねぎらう姿勢で接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関わりの中で、利用者の思いに傾聴するようにしている。家族からの情報や直接利用者に希望を尋ねることもあるが、困難な場合は、入居者本人の日常の言動や行動から意向を察し、毎日の申し送りや毎月のグループホーム会議で職員の認識の共通化に努めている。可能なことは直ぐにでも実践している。	マンツーマンで時間を取ってでは、中々思いを言われないことが多い為、普段の何気ない会話の延長で聞いたり、入居者同士の会話の中から拾い上げる等して確認している。意見を言えない方は、表情を見て考察するように努められている。「珈琲を飲みたい」「散歩したい」など、必要時はご家族と相談しながら可能な限り実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報だけでなく、入居後の会話の中から、これまでの暮らしの把握を行っている。知り得た情報は、随時、生活暦として記載し、職員全員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの言動・行動に注目し、日々の変化や情報を共有できるよう、出来るだけ詳しく個人記録に記載している。業務日誌や口頭での申し送りを行い、全職員が現状を把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者から直接意見を聞いたり、日々の会話から意向を汲み取っている。家族とは面会時や電話等で、日頃から十分なコミュニケーションに努め、意向を確認している。必要時には医療関係者と連携し、本人らしい介護計画を立てられるよう情報共有している。	介護計画は、原則半年ごとに見直しを行っている。介護職員が担当制で受け持ちがあり、現状を把握している。ケアマネジャーは、入居者・ご家族の意向を確認した上で、スタッフとも相談して介護計画作成を行っている。介護計画内容は密に記載されており、個別ケアの実践に繋がっている。 担当者会議は、ケアマネジャーと管理者、本人とご家族は原則参加されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は全職員で記入している。また申し送りや業務日誌を活用し、情報共有を実践している。ケアカンファレンスを定期的に行い、ブラッシュアップや見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の意向・要望は、その都度状況を判断し、できる限り支援を行っている。職員は日々のケアの中で感じた入居者の嗜好性を考え、その人に合ったサービスを提供するように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・実習生の受け入れ協力している。近隣住民、駐在所、民生委員、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとも連携し、情報を得ながら安全・安心した生活が出来るよう支援している。地域の行事への参加等積極的に出掛ける努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人と家族の意向を聞き、かかりつけ医を確認している。入居後はかかりつけ医へ情報提供を行っている。家族と相談し、希望があれば週に1回、定期的な提携医療機関の医師の訪問診療を受けている。	入居後は、それまでのかかりつけ医から協力医療機関に変更してもいいし、かかりつけ医の継続も出来る。継続の際と、他科受診時は、原則ご家族対応となる為、現況報告を行ったり、サマリーを作成する等して適切な医療を受けられるようにされている。必要時は職員も同行することもある。また、協力医療機関より医師が週1回往診に来訪している。その際は、かかりつけ医が違っていても診て頂く事も可能であり、サポート体制が出来ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常で利用者の小さな変化や気づきは直ぐに看護師へ報告し、相談している。また各利用者の主治医や協力医療機関の医師、看護師等に報告・連絡・相談しながら、日常の健康管理に努めている。指示変更時は、速やかに周知されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、家族の了解を得て診察等に同席し、担当医から説明を受けている。医療機関にも情報提供を行っている。定期的に訪問し、情報収集等も行っている。家族とも密接に連絡を取っている。(家族対応が困難な場合は当施設が支援している)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族には、「重度化した場合どうしたいか」意見を伺っている。必要により協力医療機関の医師を交え方針を確認している。入居時には、本事業所で出来る対応についての説明を十分に行っている。状態の変化に応じてその都度話し合いを持ち、家族の意向の確認を行っている。	母体が病院であり、法人内には特別養護老人ホームもある為、状態によっては入院されたり、特別養護老人ホームに入所される為、これまで看取りをしたことはない。グループホームの体制で、出来る事・出来ない事をしっかり理解してもらった上で希望されれば、その際に方針を決めて支援していこうと思われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網・急変時研修に参加している。事業所には、AEDの設置と急変時対応マニュアルがある。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災避難訓練を実施、消防署立会で指導を受けている。事前に地域の方に、周知と協力をお願いしている。運営推進会議にて訓練の予定や実施状況、反省点を報告している。また地震や風水害時は、防災マップ等で避難先を常に確認している。法人内の机上訓練(ビデオ視聴やテスト)、地域の防災訓練にも参加している。	火災訓練は、年2回避難訓練・通報訓練・消火器訓練を行っている。出火点は、一番火災が発生しやすいと思われる脱衣所を想定して行われている。 以前は、自治会長や民生委員の参加もあったが、現在は新型コロナウイルス感染対策の為に職員と入居者で行っている。 水害等の訓練はされていないが、マニュアルは作成されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには十分気配りをしたケアに努めている。名前の呼び方も本人の意思を尊重し、どう呼んで欲しいか聞いている。職員間で入居者様の話をする時は声量や内容に気を付け、本人と他入居者様が気にならないように配慮している。	異性介助を嫌がられる方には、出来る範囲で配慮するようにしており、現在は入居者が全員女性である為、男性職員ばかりの日がないようにされている。 また、サービス向上委員会があり、接遇研修も行っている。年2回はセルフチェックもあり、自身のケアを振り返る機会となっている。不適切な言動があれば業務連絡ノートを活用したり、管理者が個別に指導することもある。 プライバシーに関して、毎月発行されているおたよりの写真の掲示に関しても、入居時にご家族に承諾を得て対応されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い・希望に添うよう自己決定を促し、意志を確認している。利用者の話しやすい環境づくり、声掛けに努めている。日課や家事への参加、外出などは本人の気持ちを尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、好きなところで好きなように過ごしていただいている。また、それぞれのペースに合わせた対応ができるように、職員はその日の状態を情報共有し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の衣服は本人の意向を伺い、選択してもらっている。混乱される利用者については、職員が付き添い、声掛けしながら適切な選択が出来るよう支援している。また、希望があればスキンケアや簡単な化粧など支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の嗜好を知り、日々の体調や食欲を把握しながら食事の支援を行っている。その日のメニューは、利用者の意見を取入れつつバランスを考慮している。入居者様には、副菜の混ぜ合わせや盛り付け、食後はテーブル拭きや食器洗浄などを一緒にいき、自立支援に努めている。	食事は毎日担当の職員が、その時にある食材の中からメニューを決めて作られている。行事食の際は、2名の職員で作られている。リクエストがあれば反映できる。職員は当番制で検食も行っている。食器類は持ち込みも可能。グループホームにある食器も家庭にあるような物を使用されている。盛り付けやテーブル拭き等は、強制ではない。現在はされる方はいない。おやつレクリエーションもあり、入居者になれるべくできるようなものを取り入れる事がある。最近ではフルーチェを作ったとの事であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の観察と記録を行っている。摂取量が少ない時は、食事形態や性状を随時変更するなど柔軟な対応をしている。必要に応じて医師・ST・OT・栄養士に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1回/年の歯科検診においてアドバイスを頂いている。毎食後、口腔ケアを促し、見守りと自立支援に努めている。また、寝る前に義歯洗浄を介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、時間と量を把握するように努めている。それを基にトイレの声掛けやオムツ交換を行い、それぞれに合った下着やオムツ、パット類を使用している。尿便意の曖昧な方は、表情や動作を汲み取り支援している。	排泄チェック表には、排泄のあった時間をきちんと記載されてる。トイレのパターンが把握でき、パットの使用量が減ることもある。各居室にトイレが付いている為、夜間もトイレ使用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して時間と量、性状を把握している。また、献立や水分摂取量には特に気を付けている。身体を動かすよう毎日体操や歩行訓練・散歩を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は週3回としているが、ご本人の希望や状態により変更している。入浴に抵抗や拒否がある方には、介助するスタッフや時間の変更(場合によっては翌日)をするなど、柔軟に対応している。また、状況に応じて入浴やシャワー浴ができるように努めている。	入浴は、毎週月・水・金曜日に行われている。曜日の固定はあるが、順番は決められていない。シャンプー類の準備はグループホームにあるが、希望があれば持ち込みも可能。拒否のある方には、無理強いしないようにして、精神的負担が大きくならないようにされている。また、状態に応じてシャワー浴や清拭対応もされる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングのソファでいつでも休息出来るように室温・湿度の調整を行い、快適な環境づくりに努めている。個々の生活リズムを把握し、声掛けや誘導などを行い、ゆっくりと安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時、薬局から発行される「薬の説明書」を記録ファイルに綴じ、すぐに確認できるようにしている。与薬時は、入居者の能力に合わせ介助し、内服するまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意向を基に、嗜好や生活習慣を考慮し、各人に合った家事やレクリエーションを提案している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じ、戸外に出られるよう支援している。天気や気候に応じて散歩を実施、季節毎のドライブや花見を行っている。イベントにも参加し、地域の方とも交流している。家族のイベントへの参加・協力にも支援している。	現在は、新型コロナウイルス感染対策の為、外出は出来ていない。以前は、法人主催のクリスマス会にお連れしたり、ご家族に協力して頂き、遠方に行かれる事もあった。新型コロナウイルス感染対策のもと、最近では空港公園に飛行機を見に行ったり、ドライブで風景を見て季節を感じて頂く事はある。また、近所の花壇まで散歩にお連れするなど、出来る範囲での外出をされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理出来る金額を家族と合意の上で所持してもらっている。買い物希望される場合は、自分で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、その都度対応している。暑中見舞いや年賀状書きは、職員と一緒に取り組み、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	荘内各所に空調設備があり、季節やその日の天候を考慮した温度管理を行っている。また、カーテンや日除けを使い、光量のコントロールを行っている。時々窓を開け室内に風を通し、肌で季節を感じるができるようにしている。季節を感じる作品を入居者様と一緒に作り、玄関の壁やリビング内の頭上に吊り下げている。	清掃・消毒は、毎日当番があり職員で実施されている。 リビングは広く明るい。キッチンからも入居者が見渡せる間取りになっており、入居者も調理風景を見たり、物音が聞こえる為、家庭的な雰囲気を感じる事ができる。 廊下には、入居者と職員が共同で作った壁飾りがあり、季節に応じたものを作成されていて、温かみを感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者それぞれの個性を大切に、リビングのテーブル席を決めているが、その時々で移動できるように対応している。またソファを多めに用意しており、横に座って会話をしたり、互いに距離を取って過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのタンス・棚・テレビ等などがあれば持ち込んでもらい、安全面を考慮しながら本人・家族の好みに配置している。室内の壁には、ご家族の写真やペットの写真、レクリエーションで作成した作品などを飾っている。	清掃・消毒は、毎日当番があり、職員で実施されている。 居室には、危険物以外は持ち込み可能となっており、テレビやラジオを持ってこられていたり、写真を飾られている方もいる。寝具も持ち込みであり、入居前にご自宅で使用していたものを持ち込むことも出来る。 各居室にトイレが整備されている為、プライバシーの配慮にもなっている。	

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない